

車輪は地上を走る交通機械の生命だ。幾何学的理屈を言う

車輪は地上を走る交通機械の生命だ。幾何学的理屈を言う

平成 28 年 9 月 16 日

車と道路の相乗的發展 日本では理解に遅れ

ールとは似ても似つかず、ガタガタして乗り心地はよくない。

いまひとつは、車軸と物を載せる台の間に設けるクッション(緩衝はね)や、車輪を軟らかくして地面の凸凹を吸収するタイヤだ。

面曰いことに日本では、車はあまり使われなかった。平安時代の貴族の乗った牛車(ぎっしゃ)は、移動機能はさておいて権威誇示のための重厚な造りや華やかな装飾に流れて、西欧みたいに普及しなかった。

日本で車があり発達しなかったのは、車と道路の相乗的發展、つまり道路が良くなれば車が進化し、車が進化すれば道路も良くなるという相互刺激による発展コースに乗れなかったためだ。

まず地面を平らにしたことだ。つまり道路の舗装で、その極限が鉄道のレールだ。

和田昭允

サイエンスは要素還元主義だ。物や事の要素を見極め、それら要素が互いにどのよう

古典的還元主義しか知らない評論家のような科学者は還元主義を批判し「全体を見なければ、ものごとは分からない」と説く。

それは当然だ。はじめから全体を見ろと言われても、その全体とは何か。

合理的な思考戦略だ。その基盤は3つある。まず森羅万象には階層構造がある

和田昭允

平成 28 年 9 月 23 日

要素還元主義 考察の出発「全体」にあらず

それより一つ下位つまりミクロ階層で成り立っている概念と法則で記述可能なことだ。

そして、この仮定に立つて物事が矛盾なく説明できる限り仮定は正しいとする。

考察対象が決まったら、その対象階層の構成要素から考え始める。

感性と理性をつなぐ悟性という概念は少し分りにくい。

感性は想像力とした。すなわち感性が受けた多様なものを悟性の想像力が総合し、それを受けた理性がその「総合の統一」をすることで、三者

和田昭允

われわれは毎日、五感を通じてものごとを見たり聞いたりして情報をとり、それらがすでに自分の頭にある知識と

そのとき頭脳は感性↓悟性↓理性という思考展開をする。

歴史のはじめからあった。直観的な感性が受けた情報を、認識から理解へと構成する概念把握能力が悟性で、その理解をもとに推論し、原理・法則を洞察して総合する理性で

感性と理性をつなぐ悟性という概念は少し分りにくい。

感性は想像力とした。すなわち感性が受けた多様なものを悟性の想像力が総合し、それを受けた理性がその「総合の統一」をすることで、三者

和田昭允

平成 28 年 9 月 30 日

悟性 理性と感性の媒介役

矛盾する考えや異なる意見も、一段高いレベルに昇れば統一見解が見えてきて、合意・解決できる。

この過程にあつて悟性は、アウフヘーベンしようとする理性を認めながらも、正しい結果に落ち着かせるために、矛盾する考えや違った意見を主張していく、というのがだ。

サイエントイストは感性を動かして、宇宙のあらゆる事象の中からこれぞと思うものを選び、よく観察して対象を説明できる情報を定量的に取り出す。

感性と理性の間にあつてとかく埋もれがちな悟性の重要性を今一度考えてみることは、さらなる発展のきっかけになるはずだ。

和田昭允

和田昭允